

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2007年7月)

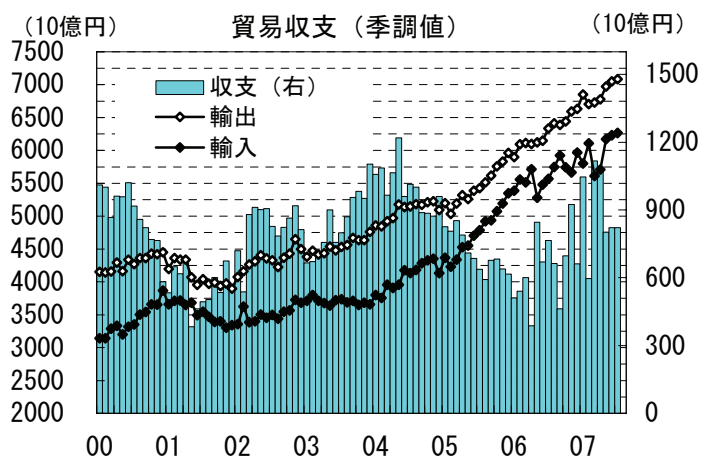
発表日2007年8月22日(水)

～貿易黒字額は9ヶ月ぶりに減少～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

TEL : 03-5221-4525



(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
06年7月	765	6332	5567	851
8月	663	6411	5748	192
9月	463	6386	5923	1007
10月	696	6441	5745	613
11月	924	6590	5666	908
12月	661	6631	5970	1110
07年1月	1046	6850	5804	-3
2月	596	6704	6108	975
3月	1117	6727	5610	1628
4月	1068	6777	5709	921
5月	802	6975	6173	383
6月	822	7053	6232	1223
7月	823	7086	6264	671

(出所: 貿易統計・財務省)

(前年比、%)

	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
06年7月	14.2	7.9	5.8	8.9	3.6	6.2	17.0	12.3	4.1	▲ 6.2	3.3	11.1
8月	17.5	5.0	12.0	13.0	7.7	10.5	16.2	13.6	2.4	6.4	4.0	4.7
9月	15.2	7.3	7.3	7.5	8.2	13.1	16.9	13.9	2.6	2.7	▲ 2.0	7.7
10月	11.6	9.7	1.7	10.3	▲ 1.3	6.7	17.5	8.8	8.0	19.7	4.3	12.3
11月	12.1	7.8	4.0	7.4	3.2	6.1	7.6	5.0	2.4	5.3	▲ 6.6	6.0
12月	9.8	5.3	4.2	6.7	▲ 2.6	8.4	7.8	3.2	4.4	▲ 10.6	8.7	7.2
07年1月	19.0	9.4	8.8	0.7	▲ 4.8	23.0	10.3	10.4	▲ 0.1	15.8	0.5	0.2
2月	9.7	11.1	▲ 1.3	1.7	▲ 0.4	2.5	10.2	2.2	7.9	3.8	4.3	16.5
3月	10.3	9.6	0.6	▲ 4.2	▲ 3.7	7.4	0.2	7.3	▲ 6.7	8.8	0.6	▲ 13.0
4月	8.2	7.8	0.4	▲ 13.1	6.6	7.0	3.5	10.3	▲ 6.1	21.2	▲ 0.5	▲ 4.7
5月	15.1	8.4	6.2	▲ 13.2	8.8	12.1	15.6	14.5	0.9	12.5	8.8	2.2
6月	16.2	9.7	5.9	▲ 8.3	7.8	13.4	10.8	17.2	▲ 5.5	▲ 4.4	5.0	▲ 5.2
7月	11.8	9.0	2.5	▲ 10.4	2.7	10.6	16.9	17.3	▲ 0.4	6.2	14.9	1.2

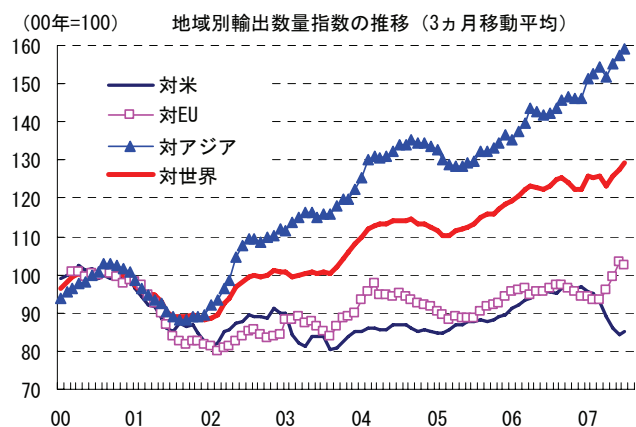
○7月の貿易黒字額は前年比▲21.1%

7月の貿易収支は6712億円(原数値)、前年比▲21.1%となった。輸出金額は自動車や鉄鋼、通信機等が増加したものの、全体では前年比+11.7%(前月同+16.2%)と伸びが縮小した。一方、輸入金額は前年比+16.9%(前月同+10.8%)と原油価格上昇の影響を受けて原粗油が増加したこと、非鉄金属鉱などの輸入も大幅増となったことから前月から伸びが拡大した。輸入の伸びが輸出の伸びを大きく上回ったことから貿易収支の黒字額は前年を下回り、9ヶ月ぶりの減少となった。

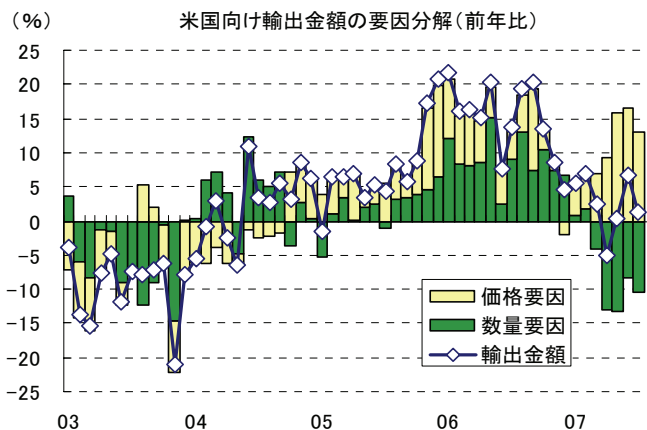
○地震による自動車生産停止の影響もあって7月の輸出はやや弱め

数量ベースの輸出は前年比+2.5%(前月同+5.9%)と伸びが鈍化した。また、7月の輸出数量を4-6月期対比で見れば▲1.5%(当社で季節調整)となる。輸出の基調は底堅いが、7月についてはやや弱めの動きとなった。地域別(数量ベース)にみると、米国向け(前年比▲10.4%←前月同▲8.3%)はマイナス

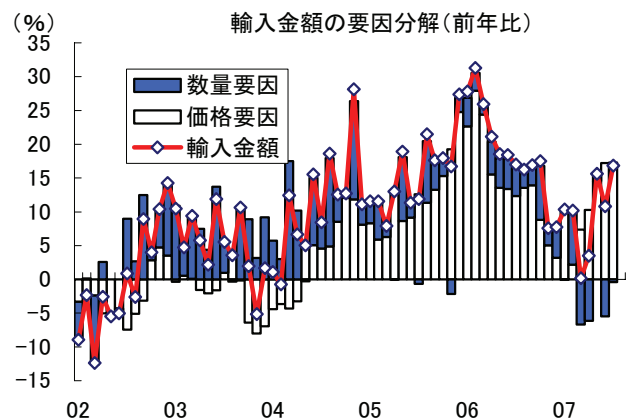
幅が拡大しており、芳しくない。自動車輸出が前年比▲11.8%（6月同▲2.4%）と大きく落ち込んでいるが、7月は日本で発生した地震によって自動車生産が一時ストップしたため、輸出にも幾分影響した可能性が考えられる。ガソリン価格の高騰や米国景気の減速などもあって自動車輸出は減少が続いているが、燃費性能などの競争力が高い日本車の輸出が先行き失速していく公算は小さいと考える。また、アジア向け（前年比+10.6%←前月同+13.4%）、EU向け（同+2.7%←前月同+7.8%）は、やや伸びは鈍化したが増勢基調が持続している。EUおよびアジアについてはともに景気が好調なこと、足元まで為替が円安傾向となっていることなどが輸出の増加につながっている。



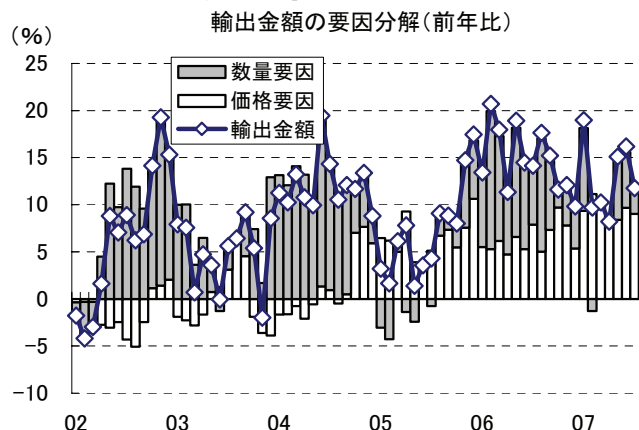
(出所) 財務省「貿易統計」



(出所) 財務省「貿易統計」



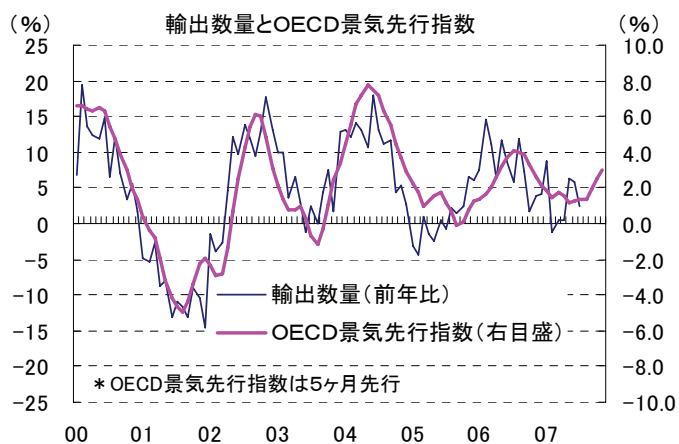
(出所) 財務省「貿易統計」



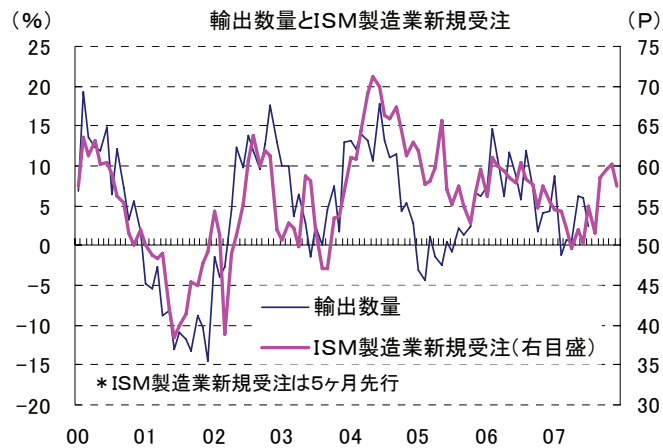
(出所) 財務省「貿易統計」

○輸出は今後増勢が強まると考えるが、楽観視ばかりできる状況でもない

輸出の先行きについて展望すれば、米国経済が復調し、世界景気の拡大が持続すると見込まれることから輸出は徐々に増勢が強まってくると考える。米国景気については、住宅部門での調整がしばらく続くと考えられるが、雇用・所得環境が良好なことから個人消費は堅調に推移し、ソフトランディングは可能と考える。OECD景気先行指数、ISM製造業新規受注が改善傾向を辿るなど、先行指標が良好なことも輸出は増加基調で推移というシナリオを支援する材料である。ただし、楽観視ばかりできるような状況にはなく、リスクについても一定程度見ておく必要もあると考える。サブプライムローン問題を震源として信用収縮懸念が大きくなり、金融市場は調整色が強い。また、住宅市場の調整が深刻なものになり、米国の個人消費への悪影響が大きくなるリスクも無視できるほどには小さくない。為替の動向も含めて先行き不透明感が高まってきている点には注意を要する。



(出所) 財務省「貿易統計」、OECD



(出所) 財務省「貿易統計」、ISM